

湘南学園だより

No.106

★
発行
湘南学園だより部
編集

『未来を築く』

理事長 中川一省

卒園生、卒業生の児童、生徒のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

いま、みなさんの心の中にあるものは、無事卒業の日を迎えられた喜びと感謝、そしてこれから先歩む道への期待と不安、安堵感とさわやかな緊張感が入り混じったような、そんな思いではないでしょうか。

●「幸せを導くもの」

あるドキュメンタリー番組に出演していた阿蘭梨（あじやり）位にある高僧が「幸せを導くには」というテーマで、こんなことを語っていました。

「感謝は悟りを得るはじめと言います。こんなことは、私がわざわざ言わなくても、どなたでもご存知のことでしょう。ところが、せっかくなりに感謝を言葉にできず、素直に感謝を言葉にできず、感謝といえ、ありがたうという言葉が浮かんでくるでしょう。けれど、ただ言えれば良いというものではなく、言葉にこそ言葉が生まれていかないと、せっかくなりに感謝が伝わっていかないので、ここからは、姿、形、顔に顯れるのです。」

ムスッとしたり顔をして「ありがたう」と言って、その気持ちを受

け取ってくれるのは、親と子の間柄くらいなものかもしれない。親は子を生まれた時から育んでいるから、その子の心の奥にある真（まこと）をくみ取ることができ、子はそこに甘えて「親なんだから分かるでしょ」とした態度をとる。ところが、こうした態度は、社会に出ていった時、新しい分野での人との出会いでは、まったく通じていかないのです。

やはり、日ごろの心がけが大切で、常に、喜びを全身で表現すると、どんな美辞麗句よりも相手には、感謝のこころが伝わっていくものです。」

まず「ありがたう」「有難うございます」と言葉を口に出し、親、先生、友人に言ってみてください。できれば、笑顔添えて。きっと、こころの中にあたたかいものが湧いてくるはずですよ。

●「幸せを懐消しにするもの」

高僧は、さらに幸せを不動（種固たるもの）にするための極意を説いてくれました。

「決してむずかしいことではありません。暴力、暴言は論外ですが、欲があっても貪欲にはならないこと。不平、不満を言わないこと。人を威圧（脅かす）しないこと。他人の悪口は言わないこと。ここには、むやみに人を批評、批判しないことも入ります。口だけ

きれいな事言って、人を欺かないこと。自分より他人のことを先に考え、親切にしていこう。

これらのことは、人が成長していく段階で教育機関や大人から学んでいくことが大半ですが、智慧をつけてもらっても、悪用しては決してその人は幸せになつていかないし、人は寄つて来ない。つまり、友人、仲間にも恵まれない人となつていってしまうのです。

人は完璧ではありませんから、これらのことすべてを完全に守ることはできないかもしれませんが、常に、そこへ向かっていく努力を怠らず、くさらず、怠ることのないように、ひとつひとつ、一歩一歩実践していくことで、幸せのほうからやってくるようになります。」

高僧の言葉だから、神妙に聞き入ってしまうのですが、これらのことは、すべて学園生活の中で卒業生には授けられたことです。どうかその正しい智慧にさらに磨きをかけて、これから生きる未来に、豊かで平和な世界を築いていってください。

学園生の未来が燦然とした輝きに満ちあふれますよう、心より願い、お祈り申し上げます。



【次期学園長に藤岡貞彦氏を再任】



藤岡貞彦現学園長の任期が、今年3月末日をもって終了することから、理事会では昨年10月以降、次期学園長の選任をすすめてきました。その結果、12月の理事会において、藤岡貞彦現学園長（写真）の再任を決定致しましたのでここに報告致します。

今回の学園長選任にあたっては、候補者を学外の知識人の方、および現場の専任教員の双方から求めました。しかしながら1ヶ月余りの受付期間において候補者の推薦がなく、理事会の責任において次期学園長を選任していくこととしました。

その後複数の候補者の方が浮かび上がりましたが、いずれも見送られ最終的に藤岡現学園長に学園長職の継承を要請し、氏からもご受諾を頂きました。藤岡現学園長は夏の時点ではご体調のこともあ

り、学園長職の継承をしないというご判断でしたが、その後ご体調も回復され、これまで2期のご経歴を踏まえてあと1期継続することをご決意頂いたものです。

藤岡学園長は一橋大学名誉教授として、とりわけ「生涯教育」分野における第一人者です。2004年（平成16年）4月に湘南学園第8代の学園長としてお迎えして2期4年にわたってその任にあたり、ご尽力されました。

今回の再任にあたり、藤岡学園長から12月の評議員会において「学園長選任の結果を受けて」と題した来期2年間の「指針」が公にされましたが、2008年に創立75周年を迎える本学園の学事の最高責任者として、学園が一層社会的な評価を高められるよう、ご努力いただけるものと確信しています。

理事会としては、藤岡学園長をご支援しつつ、氏の目指す学園教育が定着されることを願っております。

保護者の皆様、教職員の方々におかれましても、今回の理事会の決定にご理解を賜りますとともに、湘南学園の一層の発展に向けご協力頂きますようよろしくお願い致します。

【学園長再任の決定を受けて】

学園長 藤岡貞彦

理事会での選任を受けて、たいへん光栄におもひ、つつしんで受諾いたしました。

私学をめぐる急速な状況の変化の中で、学園創設以来の建学の精神を堅持し、発展させたいと思います。

建学の精神のなかで引きつがれてきた各項目の中で、「気品高く」の二項にとくに着目し、「気品高い」青少年の育成のための教職員自身の品格倫理規定、「研究と修業」を重んじ、学園のルネッサンスをはかります。

私は、オープン・スクールの場等で、学園のめざすものとして、次の四点を強調してきました。

- ① 自由と規律
- ② 独立自尊
- ③ 安全と安心
- ④ 気品と人格形成

この学園の目標は、明るい同僚意識に支えられた教師集団の力によってのみ実現されるものです。

そのためには、不断の学校改革の努力が不可欠です。

今学園にかかわる共通の改革問題として、当面4つの項目をあげておきましょう。

- ① 幼小のあいだ、小・中のあいだの「接続」の問題
- ② カリキュラム改訂の問題
- ③ 「接続」とかわる「学力」の向上と、「学力」概念の絶えざる再検討
- ④ 児童・生徒の自主的活動の振興

とりわけ、2008年度からは、小学校の建設と小学校の改革が、学園問題の中心となつていかねばなりません。

近年、着実に中学・高校の改革がすすんでいきます。そのなかでキャリア教育（青年の進路指導）が二つの柱となつていきます。二貫教育をか、ける本学園では、今学園でとりくむ目標となるものでしょう。

本学園は、創立当初から「二つの村」としての「二貫校」の性質と、「健全な進学校」の二つの命題を同時にクリアしなければならぬ宿命を負っています。

過日の幼稚園で行われた「クリスマス・コンサート」、中高生の幼稚園児へのプレゼントの様な、心あたたまる、内実のある3パートの接続・一体化を求めていきたいと願っています。

交流保育

Ⅱ 幼稚園での「きょうだい」体験Ⅱ

年中組担任 姫野 貴美子

「おはようございます。私の弟来てますか？」「僕の妹、昨日は風邪でお休みしてたけど、今日は元気になって来てるかなあ。」と、年中児のお部屋にやってくる年長児。幼稚園での自分の「きょうだい」に挨拶をしたり、元気になっているのか、様子を来たりして見ているか。そんな朝の幼稚園での一場面。見ているこちらも、微笑ましくなる素敵な光景です。

幼稚園では、「遊び」ということを大切にしながら、日々の保育を行っています。家庭にはない同年齢の集団の中で、子供達同士が関わり、共に育ち合っていくことは勿論ですが、それと同時に、年齢やクラスの違いにとらわれず、幼稚園の中を子供達が自由に行き来するなかで、異年齢の友達を目にした時、一緒に遊んだりすること、色々な友達がいることを知りお互いに刺激しあい、様々なことを感じ取り、学んでいくことも、子供達の育ちの中で大切だと考えています。

年長児が、歌や手遊びを見せたり一緒にゲームをしたりしながら、リードしていき、自分達が年上であるという自覚を持ち始めます。年中児の緊張もほぐれてきた頃、一対一でペアを組みます。年中児にとっては、幼稚園での、お兄さん、お姉さん、年長児にとっては、可愛い弟や妹ができるわけですから、一緒に遊んだり、お弁当を食べたりしながら年中児は年長児を身近に感じようになります。

十一月には登園からお帰りの時までの一日を、一緒に過ごす日もありました。お部屋が変わったり、靴やタオルを掛ける場所が違っていたり、いつもと違う環境に戸惑う年中児の顔を、年長児が覗き込み、「大丈夫だよ。教えてあげるからね」と言って優しく手を引いている姿もありました。「何をしたいか」と、「その日は二人で相談しながら遊びました。登り棒が途中でできないうちの年中児の足を、年長児が下から支えながら、自分の手を踏み台にして、「頑張れ、あと少しだよ。」と応援しながら登らせてあげたり「おいしいケーキを作ろう。」と年長児が重いタイヤを重ねて大きな二段

ました。

そんな優しいお兄さん、お姉さんから、色々なことを学んだ年中児。三学期になると、今度は自分達が、お兄さん、お姉さんになって、小さな年少児に何かしてあげたいという気持ちが大きくなってきました。年少児との交流を行うと、そこには、自分達の見てきた優しく頼りがいのある年長児のお兄さん、お姉さんようになって、年少児を温かく見守る年中児の姿がありました。

交流保育の中で、多くの友達に出会い接していくことで、子供達は、様々なことを感じ自信を付けながら成長していきます。幼稚園での「きょうだい」を通して、そんな子供達の素敵な姿を、たくさん見ることができました。次年度も、こういった機会を多く持ちたいと思っています。



年中児のトンネルを年少児が通っています

湘南学園小学校を

卒業するみなさんへ

小学校校長 小山良昭

卒業おめでとうでございます。湘南学園小学校卒業生は昨年度まで、五一三名になります。そして今年度、みなさん一人ひとりの名前が湘南学園小学校卒業生として、五一四番目から記録されます。

みなさんは、当たり前のように小学校を卒業して中学校へ進学しますが、中学校では今までと違う新しい生活が始まります。自分づくりへの出発であり、新しい仲間との出会いでもあります。

みなさんは、湘南学園小学校の生活の中で様々な経験をしてきました。例えば、たいいく表現まつりの時に踊った「南中ソーラン節」は多くの人に感動を与えました。また、五年生の時に新しい踊り「七頭舞」に挑戦しやり遂げました。嬉しいことや楽しいこと、つらいことや悲しいこと、がんばったことやがんばれなかったことなど、一つひとつのことが積み重なって、今の自分があります。ですから、今の自分を好きになり、今の自分を大切にしてください。そして、相手を思いやる心を持って人に接してください。私たちは、人と人

との関わりの中で生きています。その中で、言葉は重要な意味を持っています。言葉によって励まされ、言葉によって傷つきます。言葉は魔法のようでもあります。

- 一つの言葉でけんかして
- 一つの言葉で仲直り
- 一つの言葉で頭が下がります
- 一つの言葉で笑い合います
- 一つの言葉で泣かされる
- 一つの言葉はそれぞれに
- 一つの心を持って
- きれいな言葉はきれいな心
- やさしい言葉はやさしい心
- 一つの言葉を大切に
- 一つの言葉を美しく

(作詩者 不明)

湘南学園小学生として卒業していくみなさんに期待することは、目標や夢・あこがれを持ち続け、実現できることを信じて努力することです。ただし、時には休むことも忘れずに。

六年の皆さんへ

六年すばる組担任 齋藤忠則

六年生の皆さん、卒業おめでとうでございます。保護者の皆様、六年間の御支援、どうもありがとうございます。また、すばる組のみなさんには担任としての一年間、大変お世話になりました。どうもありがとうございます。

さて、みなさんは六年間、小学校で数えきれないほど多くのことを学んできました。学んだことが多すぎて、何を学んだか分からなくなってしまうほどではありませんか。授業で学んだこと、友だちとの関わりの中で学んだこと、何でもいいので少し考えてみてください。

小学校は卒業ですが、まだしばらく小学生生活は続きますね。それも一番面白い時期に突入していきます。「小学校が一番よかった」という弱音を吐くことがないよう、気を引き締めて春からの生活を迎えて下さい。「今が一番」と言えるか言えないかは自分の心持ち次第です。

学生時代が終わるとみんなすぐに社会人、大人として生きていかなければなりません。限られた貴重な時間を有意義に過ごし、人に慕われ尊敬される大人になれるように、今まで以上に多くのことを

学んでいって下さい。何でも人のせいになり、陰で人の悪口を言ったり、平気で人を裏切るようなつまらない大人には絶対にならないで下さい。こういうことがどれだけ悔いのあることか、卑怯なことか、人を不愉快にさせ、また傷つけることかというところは、間違いないから。

最後になりますが、とにかく学校へ行くことを一番の楽しみにして下さい。友だちといろんなことを話し、互いに支え合って生活して下さい。そしてたまには遊びに来て下さいね。



卒業生を送るにあたって

「学園の集団生活で学んだことを 将来での自分の力に」

高3学年主任 緒方哲也

02年4月に学園中学校に入学し、その年の夏から新たに8名の編入者を加えて始まった現在の高校3年生の生徒諸君も、いよいよ卒業を迎えることとなりました。学年全体の人数も、数えてみれば近年にない140名という「少数精鋭?」での卒業です。中学校時代から、教室の後ろには広々とした空間があったので、休み時間や放課後などではそれを十分に使うことができて、他の学年からも羨ましがられたことを思い出します。こうした、人数が少ないという「利点」が幸いしたこともあって、この学年では、今までにないことを実現することができました。

高1では生徒諸君の要望と立案で学年の日を実現しました。生徒の中で「学年の日実行委員会」を結成し、1泊2日の日程で山中湖近くの合宿施設で行われたリクリエーションや野外炊事などでは、学年の団結力が一段と高まりました。高2の研修旅行では4コースの内、3コースで飛行機の使用が許可され、北は日本の最北端である北海道の宗谷岬から、南は屋久島・西表島へと、私達の一生涯で

もなかなか足を踏み入れることのできない場所へと足を運び、大自らの「恵み」を謳歌して、そのかけがえのなさを体験してきました。その他の学校行事などの取り組みにおいても、私達教員の手を煩わすことなく、次々と新しい発想とアイデアを駆使して学校全体を盛り上げてくれたのもこの学年でした。

特に高校生になってからは、個性溢れる生徒達が、クラスや学年の枠を越えて、みんなのために自分達の出来ることは何だろうかとかえ始め、それをやろうという生徒達が次々と現れて、クラスや学年、そして学校全体を動かすようにもなりました。そして、周りの生徒諸君もその人に積極的に協力するといふ、これまた不思議な「協力体制」が出来上がって行ったのもこの学年ならではの「産物」でした。この「体制」は、確かに生徒諸君の努力なしには作られなかったことも事実なのですが、少なくともこの学年で起こったこうした現象を見ていくと、生徒一人一人が持っている個性が創り出すその人の役割というものが、学校

における集団生活の中の色々な場面であらうと発揮されたのではないかと思っています。個々がバラバラにされ、人々が疎外されている昨今の社会状況の中で、学校生活を通じてみんなで取り組むことの大切さや、一つのことをみんなで協力して成功させたという達成感を、多くの人と共有することができたのはとても素晴らしいことです。それを、この学年で多くの生徒諸君が学び経験できたことは、私達教員にとっても大きな喜びでした。

そして高3の学年になってからは、多くの生徒諸君が「大学受験」といふ、今までになかった大きな試験を経験しました。幼稚園から14年間の歳月を学園で過ごした人にとっては、初めて経験する「大学受験」といふ難局に直面して、大いに困惑した人もいたでしょう。そうした高いハードルを兎事にクリアした人も、残念ながら今回それができなかった人も、今、卒業という節目を迎え、自分の将来の岐路に立つことになりました。

日本の社会では今、「格差社会」「ワーキングプア」「医療難民」

などの現象が、現実問題として私達の生活の中にもジワジワと入り込んで来るようになりました。これからの社会は不安だらけと言っても過言ではありません。昨年10月に全国高等学校PTA連合会などが行ったアンケートでも、現役高校生の60%近くが「これからの社会は好ましいものでなくなる」と答え、74%の高校生が「将来働くことに不安を感じる」と答えています。恐らく、皆さんの大部分の人が同じようなことを感じていることでしょう。しかし、そうした「不安」で「好ましくない社会」が横行してしまう世の中だからこそ、学園の集団生活の中で学び、お互いが育んできた、「みんなで協力して達成することの喜び」というものを大切にしていって、それを将来の自分を考える上での糧(かて)にしてほしいと思っています。

「今いる高校三年生全員が笑顔で卒業式を迎えられるように」といふのは、今年度の学年の最初に言ってきた言葉です。これからの進路については、皆さんのそれぞれの事情があるとは言え、めでたく卒業式を迎えることができることを本当に嬉しく思っています。学園生活での良き思い出をいつまでも胸に、これからの活躍を期待しています。卒業三年生の皆さん、「夢」を持ち続けて未来へはばきたいください。卒業おめでとうございませう。

「引き継がれていく遊び」

幼稚園 青木萬里子



今年の卒業記念品として竹馬を購入させていただきました。竹馬あそびはバランスが要求されるだけに幼児にとっては難易度が高い遊びです。まずは得意な保育者がいとも簡単にスイスイ歩いたり、走ったりして模範を見せると、「やる！やるっ！」と早速、何人かの年長さんが飛びついてきました。挑戦開始です。保育者の「前に倒して！」「自分で竹馬をもちあげて歩くのよ！うまい！うまい！」などの励ましの言葉に何日も挑戦を積み重ねていくうちに「自分で歩いてみるから押さえないでいいよ！」という自立のことばも聞かれるようになりました。いよいよ竹馬の一人歩きです。足のせ台をグンと高くしたり、走り竹馬で競争し合うなど新たな挑戦に挑んでいく年長さんも現れました。なにも増して頑張る友だちの姿は良い刺激となり仲間が増えていきます。「やれば出来る！」と意気込む年長さんのやる気パワーが園庭にみなぎり、今では年中さんも、なんと年少さんも挑戦を始めています。

あやとり遊びも例年に増して子どもたちを虜にしています。1本

の紐が自分の指を動かすことで、ほうきやカニやトンネルができるのですから、出来上がった時の笑顔には誇らしさも加わりとびきり可愛らしいです。自分の力で習得すると保育者も顔負けの教え上手になり、あやとり名人が増えていきます。そんな様子を遠目から見ている年少さん、ここでも真似っこです。指に紐をからませオリジナル蜘蛛の巣を作ったり、紐を手で持っているだけで満足してしまいます。年中さんになったら、自分たちであやとりを始めることでしょうか。楽しみです。

うんていに挑戦することも、遊びの基地やどろ団子を作るとっておきの場所も、穴や池を掘る位置も、はしごや竹筒などの遊具の工夫の仕方までも年長さんから年中、年少さんに引き継がれていきます。初めは真似っこにすぎないことも成長と共に自分たちの遊びとして取り入れ楽しみます。色々な遊びが子どもたちの手で伝承されていく環境をこれからも大切にしていきます。

修卒業式「最高の晴れ舞台を」

小学校 教務 鈴木 智洋



「湘南学園を知るためにも、修卒業式には是非出席して下さい。」六年前の丁度今頃、当時まだ学園の教員でなかった私を（一ヶ月後には教壇に立つ身でしたが）滝川前校長がお呼びくださいました。あえて招かれるほど特殊な式なのだろうか……。大きな期待を胸に出席したことを、今でも良く覚えてます。

式はアリーナ棟の前身、体育館で行われていました。一年生から五年生、そして卒業生。児童全員が一堂に会して行う式は、とても迫力あるものでした。自分の経験した修卒業式や卒業式が、小規模なものであったからでしょうか。その雰囲気には、終始圧倒されていたように思います。

式後、感想を尋ねられたので「大規模で迫力ある式でしたね。」と興奮をそのままに伝えると、「規模も確かに大きいでしょうが、大事なことは別にあるんですよ。」と笑われてしまいました。はて、大事なことは、一体何だったのだろう。その答えを知ったのは、それから一年後、自分が修卒業式の企画に携わるようになってからのことでした。

修卒業式において大切なこと、それは様式そのものだったのです。式そのものの在り方からプログラムまで、一つ一つの事柄には、込められた思いがありました。なぜ児童が一堂に会すのか、なぜ卒業式と卒業式を同時に行うのか……。すべてが子どもたちが主となるための企画でした。

式の中に「コール」というものがあります。各学年、これまでの活動を振り返り、進級や巣立ちの誓いをするプログラムです。このコールには、教師も来賓も加わりません。子どもたちが想いを高らかに語り、会場全員、互いに讃え合うのです。在学生はコールによって修業を迎え、卒業生はコールによって卒業を迎えます。

大人によって一方的に祝福される式ではない、子どもたちによる、子どもたちの式。常に「子どもが主体」であることを目指す、湘南学園の象徴とも言える式だと思えます。

この善き伝統と想いのもとに、今年もまた「最高の晴れ舞台」を用意できたと思います。

「ぜひ誰にも止められない！」 子ども達の合唱コンクールへの熱い思い！」

中高生徒会指導主任 荒木伸浩

10年程前の話です。「私達にとって合唱コンクールは、燃える体育祭や学園祭に比べて、「流し」の行事なんですよ。」こんな言葉を生徒から聞いたことがありません。その当時は、コンクール直前になっても合唱練習になかなか火がつかず、ついには本番でさえも自信が持てずに蚊の泣くような声で舞台上立つクラスの子どもの姿を見て、僕は担任として何とも言えないむなしさを感じたことが幾度かありました。

あれから10年余り。湘南学園中の合唱コンクールもずいぶんと変わりました。今年も、かつての高校の部での優勝曲に中学の多くのクラスがチャレンジしました。

中学の部で目を見張ったのが中3生でした。本番直前のホワイエでの声出しは、見る者聴く者に鳥肌を立てました。それはクラスが一つになるってこういうことなんだと実感させてくれるものでした。本番最後の声出しを終え、どのクラスも円陣を組んで心一つにまとまっています。その様子を見るだけでも僕は感激のあまり涙がこぼれそうでした。そこに居合わせた保護者の方が、「うちの

子が、最近毎日がすごく充実していると行って帰宅して来るんです。その意味がよく分かりました。」と興奮気味に話してくれました。

中3は、どのクラスもリーダー達が自分のクラスをしつかりと指導し、クラスみんなが協力して自分達の手で創り上げた取り組みでした。それだけに、本番の合唱も「さすがは3年生！特に今年の3年生はどのクラスも素晴らしい！一体優勝はどこなんだろう？」と芸術館に集った誰もが感じる見事なものでした。

高校の部でも、レベルアップしたギアにアクセルが踏まれたようでした。高校生にもなると、合唱コンクール全国大会の課題曲や、6部や8部合唱といった超ハイレベルの曲を自分達で見つけて来て、それらの難曲を見事に歌い上げるクラスが現れました。また、女子がほとんどいない準男子校クラスでも、これまでであったおちゃらけ気味な合唱から一気に変身し、グリークラブを思わせるような力強い歌声を芸術館に響き渡らせてくれました。

湘南学園の合唱コンクールは、どちらかという短期決戦型です。

しかし、この短期間の中で、朝練・昼練、そして、放課後の練習と、合唱を通じてクラスの団結を作っていく子ども達の様子を見ていると、そこにいる彼らは本当に幸せだなあって感じます。僕もこんな中高生時代を送っていたらなあとうらやましい気持ちになります。

クラスの合唱を支える縁の下の力持ち、そうです、実行委員の子ども達の頑張りも目立ちました。なんせ、僕達生徒会指導委員の教員があれこれ指図しなくても、どんどん話し合いを進め、新しい取り組みにも自分達の力でチャレンジしたのです。高校の部でのパンフレットの作成では、印刷をお願いした業者さんからも、子ども達の仕事ぶりを絶賛して戴けるほどの大好評のものが出来上がりました。印刷の見積もり額を最終的には半額にさせたのも実行委員の子ども達のリサーチによるものでした。実行委員がこまめに発行した「おく通信」と題した実行委員会会報は、教師が書くクラス通信願負の読む者を引き付ける構成内容でした。

10年前に生徒から聞いた合唱コンクールの印象は、現在では大きく大きく変わっています。今年のコンクール前日のことです。合唱練習に向かうある生徒に「調子はどうか？」と聞くと、とてつもなく嬉しい返事が返ってきました。

「最初は男子が協力してくれな

くて困ったけど、今では、かえって男子がやる気を出してくれてすごいです。練習を通じて、クラスみんながすごく仲良くなって、合唱コンクールをやる本当意義が初めて分かったような気がします！」と。

僕こそ彼らに合唱に取り組む本当の意義を教えてもらいました。



【理事会報告】

センターエリア3階中会議室

- 第8回定例理事会 11月10日
- 第9回定例理事会 12月8日
- 第10回定例理事会 1月26日
- 第11回定例理事会 2月23日

〈主な議題〉

- ・次期学園長の選任について
- ・小学校校舎建設基本構想について
- ・小学校建設委員会(仮称)の設置について
- ・2008年度予算について
- ・顧問弁護士報酬支払いについて
- ・裁判和解に伴う和解条項の履行について
- ・2008年度重要事業予算案の承認について
- ・事務長退職に伴う評議員籍について
- ・リトルストアの契約について
- ・法人事務局の人事について
- ・湘南学園同窓会からの申入れへの協力について

【評議員会報告】

センターエリア3階大会議室

第3回評議員会

12月22日

〈議題〉

- ・学校検査指摘事項への回答について
- ・防音事業の補助金について
- ・小学校学園変更について
- ・平成20年度事業計画案の作成について
- ・小学校建設資金短期運用について
- ・建設コンサルタント業務委託契約について
- ・その他

【事務局に新人職員採用】

法人事務局長

今年1月より事務局に職員として武藤宏美さんが採用されました。これは私学共済などに携わっていた派遣社員の方、また中高事務長が昨年末に退職したことに伴う、事務体制強化の一環です。

窓口で会われた方は、どこかで見たとのことのある人、という印象もあるかもしれませんが、実は武藤さんは昨年4月から幼稚園の受付をお願いしていたので、おなじみの方もいらっしゃるはずですよ。

茅ヶ崎高校を卒業後、音楽大学の修士を終了、楽器演奏が専門で、ボランティアで児童の音楽指導もやっているそうです。性格は明るく、対応も親切丁寧、笑顔の素敵な女性です。事務局窓口の一員として頑張ってもらいたいと思います。

父母、学園関係者の皆さんにもどうぞ今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。

武藤さんの参加により事務局体制は以下ようになります。引き続き法人に事務の推進、教学業務の支援、PTA、卒

業生活動への協力など全力で邁進して参りますので、どうぞよろしく願います。

事務局長(田中義教)、事務次長(長内康男)、給与・人事・共済(吉田次郎、武藤宏美)、経理(北村武主任、青木育子)、施設・物品(菊澤淳主任)、教務(浜越直巳主任、白井加名子、生川理絵)

※なお山本千春は育児休業中またパート事務の方々にも各職場で教務事務への対応にご協力を頂いております。中等学校(成房悦子、濱田聡子)、小学校(貴船ゆき恵、真鍋美和子)、幼稚園(中南理恵子、山川恵子)

始業式・入学式の日程

〔4月〕

- 8日 小 始業式
- 8日 中 始業式
- 9日 中 入学式
- 10日 幼 始業の日
- 10日 小 入学式
- 15日 幼 入園式

